

岡山県のメガファーム(175ha)

# 国定農産が籾殻で「バイオ炭」の製造

地域資源を活かした自然循環型社会の構築に貢献

## 生産者通信

(旬)エコ・ライス新編  
定価 100円(送料込)



大量に発生する籾殻の処分は悩みの種でした。しかし、時代は変わり地域で循環する仕組みを構築すれば、未利用資源の籾殻も貴重な植物由来の工業用資源となります。加えてJ・クレジット制度を活用すれば、天候や相場に左右される経営から脱却を測り通年での仕事量を確保することにも繋がります。

J・クレジットとは、温室効果ガスの排出量削減や吸収量を、国が「クレジット」として認証する制度



### 補助事業を活用

設備投資には、「地域の未来づくり推進事業」「事業再構築補助金」を活用して、建物に二千万円、機械装置(シリカ生成機の連続焼成機)四千万円の合計六千万円を投資。将来的に連続焼成機のラインを増設する計画で生産量を1日当たり約150kgから大幅に増産することを検討中。近隣の籾も集荷し、24時間稼働を目指し、ベトナム人3名を雇用し製造体制を構築した。

### ペレットの製造

籾殻を焼成して米糠を混ぜペレット化。微生物

資材を混ぜることで土壌改良効果を期待。今後は、ドローンで散布用のペレットを開発予定。効率的な散布を目指す。

### 経費削減効果

脱炭素の貢献として、J・クレジットでは、同社のすべての水田(175畝)から換算すると約525万円のクレジットになる計算。

また、バイオ炭の活用により生産資材費の削減で1千万円近くの効果を期待する。

今後は稲作をしながら環境貢献をし、経費削減とJ・クレジット制度等からの脱炭素の副収入で経営を安定させることも必要。



## 藁縄機を復活させ 環境教育に一役!

～温故知新 昔の知恵が地球環境を救う?～



ご提供ください!



### ◆SDGsな昔の生活

昔の日本の生活はSDGsそのものでした。稲を育て、米を収穫し、藁で「俵」や「草鞋」「藁縄」「蓑」等に活用し、使えなくなったら土に戻す。昔ながらの生活を見直して取り入れ、循環型の価値感を取り戻すことが新しい価値になる筈です。

### ◆眠っていた藁縄機の復活

長岡市の廣井工機(株)では、魚沼で製造され、使われていない藁縄機をオーバーホールし、新たにモーターを取り付けて復活させました。だれでも簡単に藁縄が製造できます。

### ◆食育で大いに活用!

小学生・中学生に食育として田植え授業をしています。今年、藁縄を活用する予定です。

未来へつなぐ環境教育に  
隔刈り等した藁の回収に  
ご協力お願いいたします